



『最高の担任に囲まれた最高の三年間』だったと思うよ。

三次次主任 後藤 功



百三十三名の三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。この三年間で進路も自分で考え決めることが

できました。後は進んだ先で頑張ることと、全力で楽しみより良い時間を過ごしていくことだけです。ただ、ここで一つ、最後に立ち止まって考えてほしいことがあります。それは『担任の先生への感謝を忘れずに』ということ。自分の力だけでここまで来たと思っていたら、それは違う。勘違いしてはいけない。この三年間、担任の先生方は皆さんのありとあらゆる面を良く見ていましたし、そのときの動き・表情・言葉などから皆さんの心の状況を捉え、その場、その時にあつた言葉をタイミング良く皆さんにかけていたと思います。私はそれがあつてこそその進路先決定であり合格なんだと思っています。

田中喜樹先生は『懐が深い人』です。懐が深いというのは物事をじっくり考えたり、様々な出来事に対して余裕を持って適切に行動できるような意味がありま

す。田中先生は「それはこうなんじゃないの？」、「こうすべきだと思うよ。」と皆さんが自ら考える余地を残しながら問いかけることができる方です。また、田中先生は進路関係に限らず、学校の日常生活様々な面でも同じように声をかけていました。いろいろな職業体験を積んだ上での的確な言葉に助けられた人は多いはず。あの体格から時折放たれる怒りの言葉は怖かったかもしれないが、皆さんからの信頼感が抜群なんですよ。どんなことがあつてもクラスの人たちは頼りつきりでした。体育祭でも天高祭の焼きそばでも。

杉原奈央先生ぐらい生徒ファーストの先生はいいと思います。分け隔てなくいつも優しくみんなに接してくれたはず。皆さんも進路志望実現のために、自分の思いを全部聞いてもらったのはありませんか？ときには気持ちが高ぶつて一方的な話をして、ちゃんと最後まで聞いてくれたのはありませんか？皆さんの考えが甘く、例えば締め切りギリギリの申し出であつてもスツと対応してくれていました。それは皆さんが見ていない職員室の中でも変わらず、いつも『皆さん

にできるだけ多くのメリットがあるように。』と考えてくれていました。そしてその通りに実行していました。裏表の全くない杉原先生に助けられた人、たくさんいるはず。

大西真子先生は教師として初めてクラス担任を務めてくれました。なぎなた部の顧問としてだけではなく、現役選手としても本場に忙しい毎日だったはず。それでも学校にいる間はずっと皆さん一人一人分け隔てなく接してくれました。真子先生なりに不安になつたら周りの先生に相談してアドバイスを聞き、「とにかく皆さんにベストの進路先を」と常に動いていました。普段から何げない話含めずと皆さんとコミュニケーションを取っていたことで、どんな進路がこの生徒には良いのかを見抜く力も抜群でした。「こういう場面でこんなふうに入力する子だから」と、きちんと根拠を持っていました。私は主任として本気で信頼していましたが、とても若い先生ですが最高の仲間だと思っています。

渡部英先生は何事も明るくガイガイ皆さんを引っ張ってくれました。皆さんはいつも楽しそうに嬉しそうに付いていていました。まさに『カモの親子』状態。朝のHR・授業・探究・掃除にありとあらゆる学校行事、本当にどんな場面においてもそうでした。わざわざ言うまでもないことですが、人を引きつける魅力あるすばらしい先生です。どんな場面においても人を前向きにしてくれる言葉や行動力をみせてくれる先生は目指す人間像として皆さんの心にずっととどめてほしい存在だと思っています。この三年間だけではなく、一生のお付き合いをしてほしい先生です。また、渡部先生は皆さんのためなら頭を下げるのできる方です。そういうことはいちいち口に出した

りはしません。が、世話になつたと思つた人がいたら、将来、人に優しくしてあげることです。返してみたら？と私は思っています。

二年間、ここぞという場面で頼ることのできた須藤颯斗先生にも皆さん相当世話になつています。たくさん話を聞いてもらった人も多いだろうし、タブレット操作もサツとやってくれて探究の時間が充実したのは須藤先生のおかげでしょう。間違いない。桔梗先生は国公立大を目指す生徒に的確に指示をしてくれました。そして長い時間付き添つてもくれました。その甲斐あつて山形大学への合格が決まつたとき、職員室みんなで「おめでとう」と言つたのは忘れられない瞬間です。また、一年間お世話になつた橋本先生、入学式のとき、私が玄関先で摘んだ春の花を胸ポケットに入れて入場してくれました。その気さくで優しい人柄に救われた人も多いはず。

長々と書きましたが、「問答無用でお礼しなさい。頭を下げなさい。」と言っているわけではありません。言うまでもない。言いたいことはたつた一つ。いずれ皆さんも私たちのような立場になるときが来ます。そのとき、目の前にいる人たち、特に子供たちに明るく優しく笑顔で接してあげてほしいなということです。そしていずれ来るであろう『自分は何をすべきなのか？』と思うことが将来あつたら、担任の先生のことを思い出してほしいなと考えています。それくらいみなさんは天童高校での三年間でたくさんのヒントをもらつていくはずなんです。担任の先生方は「みんなと関わることで最高の三年間でした。」と思つているはず。そして私から見ると「みんなもすばらしい担任に囲まれた最高の三年間だったと思うよ。良かったな。」です。

令和 5 年度 3 年次進路状況 (2 月 16 日現在)

Table with columns for gender, education level (進学, 就職, 自営, その他), university type (大学, 短期大学, 職業訓練校), and industry (各種専門学校, 公務員, 民間企業). Includes a total row (合計).

内定先一覧

2024/2/16 現在

Main table listing specific institutions and their counts, categorized by university type (国公立大学, 私立大学, 職業訓練校, 専門学校, 公務員, 民間就職) and industry.

令和 5 年度 1 年次 1 月進路希望状況 (1 月 9 日実施)

Table showing career aspirations for the first year in January, with columns for gender, education level, university type, and industry.

令和 5 年度 2 年次 1 月進路希望状況 (1 月 9 日実施)

Table showing career aspirations for the second year in January, with columns for gender, education level, university type, and industry.

将来の自分の姿をととのえるために

進路探究部長 樋口 尚美

【令和5年度 進路内定状況】 《進学》

令和5年度の進路内定状況は右の通り。卒業生のうち七五、四％が進学、二四、六％が就職という割合である。圧倒的に進学を希望する生徒が多かった。令和4年度卒業生で、進学を志した生徒の割合が六八、四％（予備校進学も含む）であったことから比べると、進学希望者は7％の増えたことになる。右の令和5年度一、二年次一月に行なった進路希望調査の結果を見ても、天童高校におけるこの傾向は今後も続くであろうことが予測できる。

高校卒業後どの道に進むのか、それは自由である。しかし、本人と保護者がきちんと向き合い、話し合いを重ね、どちらも納得した上での選択であってほしいと願う。高卒で社会人として働くメリットもあれば、進学してより高度な知識や学びを習得してから就職先を選択するメリットもある。一方で、どちらにも一定のリスクが伴っていることも知らなければならぬ。自分の方向性が定まるまで考え、調べ、迷いや課題、課外活動に集中することを心掛けてほしい。

《就職・公務員》 木村 雅善

今年度の三年生は、四月の進路希望調査では、民間就職・公務員あわせて四三名が就職希望で、そのうち民間就職希望生徒は二九名だった。しかし、その調査から一か月もたないうちに七名の生徒が進学希望となったり、進

学希望だった生徒が就職に変更したかと思うと、また進学に戻ったりするような状況だった。さらには、七月下旬から就職に変更した生徒もいれば、就職試験が一通り終わった十月を過ぎてから進学から民間就職に変更する生徒もおり、非常に落ち着かない状況であった。昨年度、就職から進学に変更した生徒は二名ほどだったが、今年度は十名もの生徒が変更した現実を目の当たりにすると、将来の自分の姿について保護者とじっくりと話すことの重要性を感じた。

厚生労働省山形労働局が七月末に発表した令和六年三月新規学校卒業予定者の職業紹介状況では、昨年度と比較し、求人数が若干減少したものの、求職者の大幅な減少のため非常に高い求人倍率となった。就職試験に向け全職員での様々な指導はもちろん、校内でのセミナー、外部講師を招聘しての講演や面接練習等を重ね、試験に臨んだ。結果、就職希望二八名全員が二月初旬までに内定をいただくことができた。

公務員については、四月に一四名の希望者がいたが、最終的に一二名が公務員試験に臨み、国家・県・市町の行政、公安に五名が内定をいただいた。合格に向けた普段の努力はもちろんだが、一次試験突破後の短い期間の中で情報収集と分析、そして対策を練って臨めたことが合格の要因であろう。今年度の合格率は三五％、昨年度も三五％であった。しかし、令和二、三年度は、六五％を超える合格率だったことを考えると、様々な要因はあるにせよなお一層の努力が必要だと考える。



三年次に向かって

二年次主任 石川 憲子

まもなく二年次を終え、卒業まで残すところ一年となりました。卒業後の進路目標達成のために、できることは何でしょう。新年度が始まるまで、始まってからも継続して欲しいことを挙げます。

1. 目標達成への強い意志を持ち、長期的な見通しを立てる。
2. 自分自身の学習状況を振り返り、必要な学力をつける具体的行動をおこす。

当然のことですが、どのような進路であっても学力は必要。家庭学習が足りていないという意識は誰もが持っているようです。「学問に王道なし」「継続は力なり」まずは入試休み、春休み休業中の課題にしっかりと取り組みながら、個別の課題は何か洗い出しましょう。

3. 基本的な生活習慣を整えよう。

挨拶は人間関係を築く基本。掃除や身の回りの整理整頓を心がけよう。欠席なく学校に来ることは学業だけでなく、すべての学校生活を円滑に進める基盤です。当たり前のことこそとても大切です。

皆さんの夢は何ですか？どんな人生を思い描いていますか？「人間万事塞翁馬」という言葉があります。日本の慣用句だと「禍福はあざなえる縄のごとし」と同じ意味です。目の前の結果に一喜一憂することなく「平常心」を保ち、こつこつと誠実に目の前のことに集中して一生懸命努力することが、道を切り開いていくことにつながります。頑張る皆さんを応援します。

どういう職業に就きたいですか？

一年次主任 佐藤 正明

進路指導の面談では「将来何になりたいですか？」と確認します。それが固まっていれば「じゃ、卒業後の進路はどうしますか？」と進め、固まっていなければ「将来の職業を具体的に考えてみてくださいね」とアドバイスします。とは言うものの、私が高校の頃を振り返ると、将来の職業について全く考えていませんでした。ただ大学に進学するという程度の意識です。進路は物理や化学がやりたいという理由のみで決めました。当時はオーブンキヤンパスはなく、わずかな資料と模試の成績で大学、学部、学科を選びました。今振り返ると安易な進路決定です。その後の就職では、プログラミングに興味があったので、なんとなくソフトウェア開発の会社に就職しました。その後、山形に戻りたいという思いから年齢制限のない教員試験を受験し現在に至ります。

一貫性のない人生ですが、それでも何とかなったのは高校の時にそれなりに勉強していたからだと思えます。ただ一貫性のなさのため、そのときそのときのベクトルの向きが違い、足し合わせた時の効率が悪かったのかなとは思いますが。もう少し将来を思い描いたのかねと思います。人生には正解がありませんが、経験から言えることは、高校生活を大切にしたい方は良いということ。高校生活を大切にしたい方は良いということ。学習、部活、趣味に一生懸命取り組みましょう。もう一つ大切なこと、将来のイメージを持ち、その目標に向かって行動することです。モチベーションも上がり、効率の良い人生を送れるはずです。

最後に矛盾することの一つ。ほどほどの無駄も人生には必要です。無駄も楽しみましょう。あくまでもほどほどですが。

◆ 合格者インタビュー ◆

あきらめないで

東北学院大学 経営学部 経営学科
下河邊 藍

① 高校一年生の時から公務員になりたいと思っていました。しかし、このままではいかと迷っていたところに親に日商簿記2級を取得してはどうかとアドバイスを受けて取得を決意し、取得したからです。また、二年生の時から簿記の授業を受け始めて、簿記がパスルを解くような感覚でとても面白いと感じ、様々な大学を調べました。東北学院大学経営学部経営学科には日商簿記1級を取得できるプログラムが1年生から組まれており、アカウンティングについて履修できる環境が整っているため魅力を感じました。将来は日商簿記2級を生かして企業の経理として働きたいと思ったことがきっかけです。

② 大学が求める推薦基準の一つに評定平均〇〇というものがあり、その平均評定以上を取り、校内選考で推薦を勝ち取れば推薦をいただくことが可能になることから、得意科目である簿記を伸ばしていくために全商簿記検定だけでなく日商簿記検定を取得することを目標に頑張りました。得意科目を伸ばすことで夢に近づくことができました。受験対策では、小論文と面接があるため、担当の先生から面接練習と小論文対策を1ヶ月半ほどしてもらいました。小論文は何度も担当の先生に添削していただき、朝日新聞の天声人語を毎日要約することを継続しました。面接は8回担当の先生と一緒に練習しました。自分の強みはあきらめないで苦しい中でも継続できることです。

③ 最後に後輩へのアドバイスとして、『あきらめないで』ということをお伝えしたいと思います。なぜなら私は、日商簿記2級を取得するまでの道のりとして12月から勉強を始め、7月に合格するまでに7回検定を受験したからです。4回目の検定で挫折しそうになりましたが、何とか立ち直り、取得することができました。また、面接練習や小論文を担当の先生に何度も指導していただきトライ＆エラーをすることにより対策したからです。みなさんは夢を見つけて決して『あきらめないで』頑張ってください！

目標を立てて挑み続ける大切さ

東北福祉大学 総合福祉学部
社会福祉学科 武田 優空

① 私は元々、両親の職業である、専門学校の免許を取得できる、理・美容の専門学校に進学するつもりでした。ですが、空手道部での活動を行っていたうちに、空手道部の顧問である、横田和浩先生と佐藤真由美先生、学校では生徒にわかりやすく授業を教え、部活動では部員のために精一杯ご指導をしてくださる姿に強く憧れを抱きました。そして、私自身も高校教員になり、学校での授業と部活動の指導者としての活動の2つに力を入れたいと考えました。そのため、福祉科の高校教諭免許を取得でき、空手道の実力も東北で一位である東北福祉大学に進学することを決めました。

② 受験ではスポーツ型AO入試だったため、担当の横田先生と真由美先生、そして担任の渡部英先生や、福祉科の先生方のある鈴木大気先生などのたくさんの先生方への強い気持ちと面接や小論文を通して伝えることを意識しました。部活動だけに力を入れるのではなく、あくまでもAO入試のため、なるべく高い評定を獲得することにも力を入れました。天童高校は授業を選択することができるため、自分の得意な教科を選択し、受験に必要な平均評定の+0.5以上は取ることを目標にしました。そして私は、部長や生徒会執行部としての活動だけでなく、3年間皆勤賞を取ることで、ボランティア活動などを通して、自分で決めたことは最後までやり遂げることを意識しました。

③ 自分で決めたことは最後までやり遂げることが大切だと思います。私は高校から始めた空手道で必ず全国へ出場すること、学校を1日も休まず登校すること、そして学校行事には積極的に参加し、1人楽しむのではなくみんなと一緒に楽しむことを決めて、高校へ入学しました。そのため、部活では部長としてのプライドを持ち、最後まで諦めず誰よりも声を出してみんなと戦ってきました。行事でもみんなと楽しむために文化祭ではバンドをやったり、クラマや新入生歓迎会での司会などさまざまなことに力を入れ

ました。いつもお世話になっている先生方に手伝って欲しいとお願いされた時は当たり前のように行ってきました。ちゃんと努力していると、自分自身ではなく、周りのみんなが認めてくれます。サポートしてくださる人への感謝を忘れずに、最後まで気持ちが切らさず、何事にも挑み続けることが高校生活を有意義にする鍵だと思っています。みなさんの活躍を陰ながら応援しています。頑張ってください。

進路実現のためにしたこと

天童市役所 初級行政 後藤 朱梨

① 高校一年生の頃まで、将来の夢や就きたい職業が決まっていませんでした。天童高校に入学して、公務員の講習を行っていると知り、少しの興味本位で参加し、天童市職員になりたいと強く思うようになり、進路を決めました。

② 天童駅のバルテの中にある学習室には毎日通っていました。放課後真っ直ぐ学習室へ行き、3時間は勉強をし、家に帰って2時間は勉強するようにしていました。集中できる環境を作ることを工夫しました。模試を一日に1回は解くようにし、間違えた問題や分からない問題を切り取り、ひとつのノートにまとめて、いつでも見返せるようにしていました。専門学校での無料の講習にも参加していました。また、日頃の学校生活にも手を抜かないようにしました。毎日休まず登校したり、部活動、生徒会、資格取得に励み、受験に活かせるよう努力しました。1次試験を合格出来ても、2次試験で自分をアピールできるネタが無ければ周りの人に負けてしまいます。企業側が採用したいと思うような人になれるように生活することが大事だと思います。

③ どの進路においても、欠席が多かったり、提出物を期限内に出さなかったりなど、当たり前のことをしていないと受験に響いてしまうと思います。勉強が苦手でも部活動や生徒会などで結果を残し、面接などで話すネタを作っておくと後々安心だと思います。公務員志望の人は講習に休まず参加し、復習を頑張ってください。1次試験よりも、2次試験の方が大事だと思います。沢山の先生と練習を重ねていってください。進学の人も

就職の人も、いい結果を出せるように頑張ってください。応援しています！

進路実現に向けて

オーデリック株式会社 山形工場
電球・電気照明器具製造業 浅野目遥香

① 私は2年生の冬頃まで進学したいと考えていました。ですが、進学してまでその仕事をしたくないと母に質問されたときに、すぐ答えを出せませんでした。けれど進学しても途中で嫌になり迷惑をかけるかもしれないと思い、早く社会に出て自立しようと思ったのがきっかけで就職しようと思いました。この企業を選んだ理由は、照明器具を手作業で組み立てているところ、魅力を感じたからです。私は、細かい作業をするのが好きで、照明器具を手作業で組み立てたいというところに活かせると思いました。

② 評定平均を高く維持することを意識しました。テスト期間中に部活動があったときもアリスト期間で、テストの点数が評定に影響してきているのでテスト2週間前には勉強に取り掛かれるように意識しました。試験内容は、s p i と面接と作文でした。s p i は難しいと聞いていたのですが、s p i が一般常識の問題集をたくさん解き、わからない問題は先生に質問するようになり、面接は全部暗記すると忘れたときに頭が真っ白になるのが重要な言葉覚え、頭の中で組み立てながら喋れるようにたくさん練習しました。作文は過去の題が数年間変わっていきなかつたので同じの題を練習しました。面接では全く違う題が出て困りましたが、面接で書こうとしていたことをつなぎ合わせて書くようにしました。作文対策は色々な題をしていくと安心すると思います。

③ 3年生からになってからは遅いので、まだどうしたいか決まっていなくても早いうちから将来を意識して生活しておくことで進路の選択肢が増えます。欠席・遅刻・早退をなるべくしないように意識して生活するのいいと思います。面接練習や作文対策など先生方に自分から声をかけて積極的に取り組んでください。何度も行うことで自信がつかえます。試験は自分の将来を決めるときでも大事なことがあるので、甘く見ずに精一杯頑張ってください。